

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農地費 目：農地事業諸費

事業名 生態系保全支援事業費補助金 生態系保全支援事業推進費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村支援係 電話番号：058-272-1111 (内4178)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,000 千円 (前年度予算額： 19,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	19,000	0	0	0	0	0	19,000	0	0
要求額	19,000	0	0	0	0	0	19,000	0	0
決定額	19,000	0	0	0	0	0	19,000	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

昔から農業の営みを通じて田んぼや水路、ため池などに様々な生き物が育まれ自然豊かな環境が作り上げられてきたが、農業生産性の追求による整備の進展や外来種の搬入、耕作放棄による農地の荒廃などの様々な要因により里地の生態系が崩れつつある。

外来種駆除、生きものに配慮した水路の整備、水田魚道の設置など里地里川の生態系を復活又は保全する取組みについて支援を行うことで、岐阜県の恵まれた自然環境を保全・再生し、農村環境が持つ多面的機能、公益的機能を高めることにより、県民が将来にわたり豊かな自然環境の恩恵を享受できるよう取組みを推進する。

(2) 事業内容

○生態系保全体支援事業

河川や水田、農業用水路などにより形成されていた里地里川の生態系を復活させるため、モデル的な取組みを実施する団体等に対し支援

【実施主体】NPO法人、地域団体

【補助率】10/10 (1団体当たり上限2,000千円)

○生態系保全市町村支援事業

農業用排水路におけるスキミングガイの駆除など、農地や農業用施設を対象とする生態系保全に取り組む市町村に対し支援

【実施主体】市町村

【補助率】1/2 (上限：1,000千円)

○生態系保全支援事業推進費【実施主体：県】

団体支援に募集のあった提案を評価する会議の開催経費

(3) 県負担・補助率の考え方

生態系保全団体支援事業は、公募で選定した地域団体等が実施し、先進的取組みの普及啓発等県下全域を対象に行うもので、全額県費は妥当。

生態系保全市町村支援事業は、地域が限定されることから市町村等にも応分の負担を求めるとし、補助率は1/2（ただし上限は1,000千円）

(4) 類似事業の有無

有

外来種駆除や、景観保全活動などは、多面的機能支払交付金の活動組織が取組む場合、交付金を活用して実施可能。

当事業は、公募で選定した地域団体が行うモデル的な取組み及び市町村が行う公益的な活動に対して補助を行い、活動場所、活動内容について、多面的機能支払交付金の活動と重複が無いか審査をすることですみわけを行っている。

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	102	評価会議構成員及び講師への報償費
旅費	56	職員旅費、団体支援評価会議委員旅費
消耗品費	30	会議印刷費等
会議費	2	構成員お茶代等
役務費	10	資料郵送代等
補助金	18,800	里地の生態系保全に関する取組みに係る経費に対する助成
合計	19,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

ぎふ農業農村基本計画

(2) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ森林環境基金事業における5ヶ年計画に基づき、令和8年度まで実施。その後は事業の達成状況や効果等を第三者の意見を踏まえて検証し、以降の対応や方針を決定。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	生態系保全団体支援事業費補助金
補助事業者 (団体)	NP0法人、地域団体、学生の組織する団体等 (理由) 里地里川の生態系保全に取り組む非営利の団体を広く募集し、第三者委員による評価会議にて選定する。
補助事業の概要	(目的) 里地里川の環境を復活・保全する (内容) 里地の生態系保全活動として、外来駆除、生きものに配慮した水路の整備、水田魚道の設置等に取り組む団体を支援する。
補助率・補助単価等	定額 (内容) 一団体当たり上限2,000千円 (理由) 公募で選定した地域団体等が実施し、先進的取組みの普及啓発等県下全域を対象に行うため。
補助効果	里地里川の環境保全が図られる。
終期の設定	終期令和8年度 (理由) 清流の国ぎふ森林環境税基金事業の終期

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 生態系を保全・復活に取り組むモデル的な活動を支援し、里地里川の保全を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

○森林環境税第3期目標 (R4～8年度)

指標名	事業開始前 (R3)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
						①里地里川における生態系保全に取り組む団体数 (延べ数)

○森林環境税第2期実績 (H29～R3年度)

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
補助金交付実績 (千円)	5,581	4,724	6,239	6,094	7,848

○森林環境税第3期実績 (R4～R8年度)

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
補助金交付実績 (千円)	6,244	—	—	—	—

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	○取組内容 農業用水路のジャンボタニシの駆除や、ため池でのヒシの駆除など、市町村が主体となった生態系保を保全する取組みが行われた。 指標① 目標：20 実績：27 達成率：135 %
令和3年度	○取組内容 農業用水路のジャンボタニシの駆除や、ため池でのヒシの駆除など、市町村が主体となった生態系保を保全する取組みが行われた。 指標① 目標：25 実績：34 達成率：136 %
令和4年度	○取組内容 農業用水路のジャンボタニシの駆除や、ため池でのヒシの駆除など、市町村が主体となった生態系保を保全する取組みが行われた。 ○事業成果 里地里川の生態系を保全する活動を実施する団体に対し支援を行うことで、里地里川の環境保全が図られた。 指標① 目標：7 実績：6 達成率：86 %

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	国際的に環境問題への関心は高まっており、本事業により里地における生態系の保全を推進することで各地域での環境保全の普及、意識の高揚にもつながり事業の必要性は増加している。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	過去5年間について、令和4年度を除けば、目標指標に対し実績100%以上を達成しており、期待通りの成果が上がっている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	外来種の駆除効果発揮のため、農産園芸課と連携した総合的な対策の推進など、効率化を図っている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 高齢化や過疎化などにより、遊休農地の増加など農村地域の荒廃が懸念され、里地における生態系の確保が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 環境保全や地球温暖化防止、生物多様性など県民の関心が高まっており、里地においても様々な課題に対する支援が必要である。 「清流の国ぎふ」森林環境基金事業の5ヶ年計画に基づき、事業を継続する。</p>

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	生態系保全市町村支援事業費補助金
補助事業者 (団体)	市町村 (理由) 共同施設である農業用排水路内の外来種駆除など、個人農地を除いた地方公共団体が実施すべき生態系保全活動について支援を実施する。
補助事業の概要	(目的) 里地里川の環境を復活・保全する (内容) 農地や農業用施設を対象とする生態系保全に取り組む市町村に対し支援する。
補助率・補助単価等	定率 (内容) 一市町村当たり上限1,000千円、補助率1/2以内 (理由) 地域が限定されることから市町村等にも応分の負担を求めるため
補助効果	里地里川の環境保全が図られる。
終期の設定	終期令和8年度 (理由) 清流の国ぎふ森林環境税基金事業の終期

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか
生態系を保全・復活に取り組む市町村を支援し、里地里川の保全を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

○森林環境税第3期目標 (R4~8年度)

指標名	事業開始前 (R3)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①里地里川における生態系保全に取り組む市町村数 (延べ数)	0	10	16	24	40	25%

○森林環境税第2期実績 (H29~R3年度)

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
補助金交付実績 (千円)	10,375	11,190	9,425	7,418	7,516

○森林環境税第3期実績 (R4~R8年度)

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
補助金交付実績 (千円)	7,785	—	—	—	—

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	○取組内容 生態系に配慮した農業用水路の整備、水田や用排水路等を活用した環境教育の実施など、農地や農業用施設を対象とする生態系保全のモデル的取組みが行われた。
	指標① 目標：24 実績：29 達成率：121%
令和3年度	○取組内容 生態系に配慮した農業用水路の整備、水田や用排水路等を活用した環境教育の実施など、農地や農業用施設を対象とする生態系保全のモデル的取組みが行われた。
	指標① 目標：30 実績：38 達成率：127%
令和4年度	○取組内容 生態系に配慮した農業用水路の整備、水田や用排水路等を活用した環境教育の実施など、農地や農業用施設を対象とする生態系保全のモデル的取組みが行われた。 ○事業成果 里地の生態系を保全する活動を実施する市町村に対し支援を行うことで、里地の環境保全が図られるとともに、地域住民の環境意識向上に寄与した。
	指標① 目標：8 実績：10 達成率：125%

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	国際的に環境問題への関心は高まっており、本事業により里地における生態系の保全を推進することで各地域での環境保全の普及、意識の高揚にもつながり事業の必要性は増加している。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価) 2	過去5年間について、目標指標に対し、実績100%以上を達成しており、期待通りの成果が上がっている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	評価会議による選定後に予算ヒアリングを実施し、予算の適正、効率的な執行について助言を行っている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 高齢化や過疎化などにより、遊休農地の増加など農村地域の荒廃が懸念され、里地における生態系の確保が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 環境保全や地球温暖化防止、生物多様性など県民の関心が高まっており、里地においても様々な課題に対する支援が必要である。 「清流の国ぎふ」森林環境基金事業の5ヶ年計画に基づき、事業を継続する。</p>
